

「平和」の大切さ

渡慶次小学校 六年一組 伊禮 紗良

「平和」この言葉は戦争で亡くなつた多くの人々を慰めるための。この世で何よりも美しく、大切な言葉、私はそう思っています。もちろん私も、最初は「平和」という言葉を、そういつた意味でとらえてはいませんでした。この考えのきかけとなつたのが、六年生で行われた、平和学習でした。空をうめつくす対空砲火、間違つた教育によつて生み出さ

た米軍への恐怖、戦争中の暮らしは、現代とは全くかけはなれたものでした。しかし、戦争中の「間違つた教育」が一体なぜ生まれ、たのか、私には全くわかりません。そもそも、その間違つた教育が無ければ、チビチリがマにいた人達が集団自決をするようなことは、なかつたかもしれません。そして、戦争でいちばん衝撃的だつたのは、沖繩を捨て石にするという日本の作戦下した。その作戦のせいで、日本兵が守つてくられると

信じてついでに、沖縄県民の人達は七くなく、つてしまいました。日本のその作戦によつて、多くの人々が命を落としました。たことは、とても残念に思います。

六月に私たちの学校に一台のピアノ会が来りました。米軍の爆げきにたえた、被爆ピアノです。そのピアノにきざみこまれた傷は、戦争の怖さ、そして恐しさを語つています。しかし、ピアノの音からは、そのようなものは一切感じられない、美しい音色が響きます。

そう、まるで平和の美しさを語つているように、少し大げさかもしれませんが、でも私は本当に、そう感じたのです。

この平和学習で、たくさんの人から学んだ戦争の怖さと恐ろしさ。そして、平和の大切さと美しさ。一生忘れられない、いいえ、忘れずにはずのない、とても貴重な経験になりました。時々、悲しくもなつたし、今の暮らしへのありがたさも感じるここができませんでした。

戦争のときの人々の多くの犠牲があつたこ

ろ、今の平和な暮らしがある。私が「平和」という言葉に、戦争で七くなっ、た人を慰めるための言葉だと感じたのは、平和学習をして、そんな考えが、ふと頭に浮かび上がったからなのです。